

令和 4 年 5 月 23 日現在

機関番号：32651
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2017～2021
 課題番号：17K12096
 研究課題名(和文) 看護の歴史の継承を促進するオーラルヒストリーのアーカイブ構築に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Basic study on the construction of an archive of oral history to progress the succession of nursing history

研究代表者
 田中 幸子 (Tanaka, Sachiko)
 東京慈恵会医科大学・医学部・教授

研究者番号：20286371
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：医療史におけるオーラル・ヒストリー研究に関する倫理的配慮の動向を明らかにすることを目的として、日本医史学雑誌の2006年～2016年に掲載された研究論文から1) 倫理的配慮の項目の有無、2) プライバシーの保護、匿名性の確保の記載、3) 実名の記載の有無、4) 研究対象者への説明、合意の記載、5) 倫理審査承認の有無を調査した。その結果、史料の分析が172件、インタビューを含んでいるものはわずか3件であった。オーラルヒストリー研究に該当する3件は、いずれも倫理的配慮の項目は設けていないが、本文中で倫理的配慮を記載しインタビューは匿名で実施されていた。うち2件は、所属機関の倫理審査を受けていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 歴史の伝承を目的とするオーラル・ヒストリー研究において、倫理的配慮のあり方は十分に明らかになっていない。社会科学では実名で公表する研究も多い。すべてを匿名にすることは歴史を曖昧にし、伝承を妨げる恐れがある一方、研究が保身的になる恐れも考えられ、歴史研究における適切な倫理的配慮のあり方が検討される必要がある。今回の研究成果は、医療・看護におけるオーラル・ヒストリー研究の倫理的配慮の在り方やガイドライン作成に資するものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to clarify trends in ethical considerations related to oral history research in the history of medical treatment. We investigated 1) whether there are items of ethical consideration, 2) protection of privacy and assurance of anonymity, 3) presence or absence of description of real name, 4) description of explanation and agreement to the research subject, and 5) approval of ethical review from research papers published in the Journal of the Japanese Society for the History of Medicine in 2006～2016. As a result, 172 analyses of historical documents and only 3 include interviews. The three oral history studies didn't have an item on ethical considerations, but the interviews were conducted anonymously, with ethical considerations mentioned in the text. Two of the cases had undergone ethics reviews by their institutions.

研究分野：看護歴史学

キーワード：看護歴史学 オーラル・ヒストリー 歴史の伝承 倫理的配慮

1. 研究開始当初の背景

看護史研究においては、文書や現物等の一次史料を基に史実を明らかにする以外に、当事者に経験を語ってもらい史実を明らかにするオーラル・ヒストリーを用いた研究がある。小野らは看護史分野における、オーラル・ヒストリーの研究動向を調査し、対象者の選定方法や倫理的配慮についての言及などは文献によってさまざま、看護史研究においてはまだ、基準的なものがないと指摘している¹⁾。近年、研究倫理が厳しく問われる中で、徹底した匿名性等の倫理的配慮が求められるならば、史実があいまいになり看護史研究は成り立たなくなる恐れがある。現状では看護史研究の倫理的配慮の基準について分析したものはほとんどみられない。ヤウ(Valerie.R.Yow)は、研究倫理の重要性を述べつつ、「情報源が匿名の場合、発言の信ぴょう性をどのように判断できるだろうか²⁾」と歴史研究の課題を挙げている。文書史料が、行政からの視点や著名な人物の自叙伝など限られた範囲で残されるのに対し、オーラル・ヒストリーは、「回顧録を残さない、伝記作家も取り扱わない非エリートの視点を提示するという意味で、オーラル・ヒストリー研究は社会の全体像を把握する上で極めて重要³⁾」である。以上から、オーラル・ヒストリー研究によって看護の歴史の継承を促していくには、適切な倫理的配慮を検討することが必要である。昨年度実施した日本看護歴史学会誌を対象としたオーラル・ヒストリー研究に関する倫理的配慮の動向の分析では、すべてのオーラル・ヒストリー研究で、倫理的配慮の項目の有無に関わらず、何等かの倫理的配慮を行っていたことが明らかになり、研究者は倫理的配慮とその記載の重要性を認識していることが伺えた。実名を記載したいずれの論文でも、実名公表に際して、慎重に研究対象者、もしくは家族の同意を得て研究が実施されていた⁴⁾。しかし、調査対象のオーラル・ヒストリー研究はわずか8件のみであったこと、1つの学会誌調査だけで看護におけるオーラル・ヒストリー研究の倫理的配慮に関する基準を判断することはできないと考えた。また看護に限定せず医療の領域でもっと調査対象を広げて分析することが必要であると考えた。

2. 研究の目的

医療史におけるオーラル・ヒストリー研究に関する倫理的配慮の動向を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

日本医史学雑誌の2006年～2016年に掲載された研究論文(原著、研究ノート、資料、総説)から、研究方法をオーラル・ヒストリーか否か区分した上で、1)倫理的配慮の項目の有無、2)プライバシーの保護、匿名性の確保の記載、3)実名の記載の有無、4)研究対象者への説明、合意の記載、5)倫理審査承認の有無を調査する。

【倫理的配慮】:研究論文の一覧作成にあたっては研究論文に発行年ごとにID番号を付与し、テーマ、著者はアルファベットで匿名化した。

【用語の定義】オーラル・ヒストリーとは本文中で「聞き取り」「聞き書き」「証言」「語り」「インタビュー」の手法を用いているもの⁵⁾。

4. 研究成果

175 件の文献を分析対象とした。原著は 108 件、研究ノートは 17 件、資料 48 件、総説は 2 件であった。明治元年（1868 年）以前のものが 78 件と最も多かった。史料の分析が 172 件とほとんどでインタビューを含んでいるものはわずか 3 件であった。オーラルヒストリー研究に該当する 3 件は、いずれも倫理的配慮の項目は設けていないが、本文中で倫理的配慮を記載しインタビューは匿名で実施されていた。うち 2 件は、所属機関の倫理審査を受けていた。

175 件中 137 件（78、3%）の研究が 1952 年（大正 14 年）以前の研究で、インタビューが困難な時期を対象に史料に基づいて研究が実施されていることがオーラルヒストリー研究の少なさ（3 件）に影響している。オーラルヒストリー研究に該当する 3 件は、日本看護歴史学会誌と同様、インタビュー対象者を匿名にし、倫理的配慮の重要性を十分に認識していることが考えられた。今後はヤウ(Valerie.R.Yow)が指摘する匿名が歴史の信ぴょう性に影響し、個人情報公表することが必要な場合にどのように倫理的配慮を行うべきか、他領域の研究も視野に入れて、さらに検討する必要がある。

【引用文献】

- 1) 小野 桂、川原由佳里、川上裕子、田中幸子：看護史分野におけるオーラルヒストリーを活用した研究文献の状況、第 32 回日本看護歴史学会学術集会抄録集、2018 年、104-105.
- 2) ヴァレリー・R・ヤウ著、吉田かよ子監訳：オーラル・ヒストリーの理論と実践 人文・社会科学を学ぶすべての人のために、インターブックス、2011 年、173.
- 3) 前掲、2)、33～34.
- 4) 田中幸子、川原由佳里、小野 桂、川上裕子：看護におけるオーラル・ヒストリー研究に関する倫理的配慮の動向、日本看護歴史学会第 33 回学術集会講演集、2019 年、70-71.
- 5) 前掲、1)、104

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 田中幸子、川原由佳里、小野 桂、川上裕子 |
| 2. 発表標題 看護におけるオーラル・ヒストリー研究に関する倫理的配慮の動向 |
| 3. 学会等名 第33回日本看護歴史学会学術集会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 小野桂、川原由佳里、川上裕子、田中幸子 |
| 2. 発表標題 看護史分野における、オーラルヒストリーを活用した研究文献の状況 |
| 3. 学会等名 第32回日本看護歴史学会学術集会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 田中幸子、小野 桂、川上裕子、川原由佳里 |
| 2. 発表標題 医療史におけるオーラル・ヒストリー研究に関する倫理的配慮の動向 ~看護歴史研究との比較から~ |
| 3. 学会等名 第35回日本看護歴史学会学術集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 川上 裕子 (Kawakami Yuko) (20612196) | 亀田医療大学・看護学部・講師 (32529) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------------------|---|--|----|
| 研究 分 担 者 | 川原 由佳里 (kawahara Yukari) (70308287) | 日本赤十字看護大学・看護学部・教授 (32693) | |

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------------------|---------------------------|-----------------------|----|
| 研究 協 力 者 | 小野 桂 (Ono Kei) | 神奈川県立図書館 | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |